

審議会等の会議結果報告書

	課所名	生涯学習課
会議名	令和3年度 諏訪市人権同和教育推進委員会	
開催日時	令和3年8月27日(金) 10時00分～11時05分	
開催場所	文化センター 第1集会室	
出席者	(出席者) 鴨志田委員長、桜井副委員長、小山委員、矢島委員、笠原委員、三澤委員、藤森委員、小島委員 小島教育長、細野教育次長、伊藤社会福祉課長、柳平教育総務課長、小林生涯学習課長、 小泉公民館長、中澤社会教育指導員、関主査、丸山主任 (欠席者) 新村委員、田中委員、中野委員 (傍聴者) なし	
資料	令和3年度 諏訪市人権同和教育推進委員会 次第 等	

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

- 1、開会
- 2、委嘱状交付(机上配布)
- 3、教育長あいさつ
- 4、自己紹介
- 5、協議(報告・質疑・討論)
 - (1)人権・同和行政について
 - (2)学校教育における人権教育の取組について
 - (3)SOSの出し方に関する教育の推進について
 - (4)社会教育における人権同和教育の取組について
 - (5)各委員より提出していただいた課題について
- 6、その他
- 7、閉会

【質疑意見一括】

- 先生方にはコロナに限らず、いじめ等の問題のとりこぼしのない指導、未然に防ぐような声掛けをお願いしている。
- 中学校でも声掛けを行い、いじめにつながらないようにしている。コロナ禍の中で活動が制限され、人権教育や道徳で重要なお互いの思いを伝えあうことが制限され、はがゆく感じている。ICTの活用など、学習方法を今の形に変えていくことを考えなければならないと強く感じている。
- タブレットの活用などについて、行政としてはどう考えているのか。→ICTの活用については、現在タブレット端末を使っている教育についてのルールを整備している状況。
- コロナ禍の中、多くの行事が中止となり、子どもたちのコミュニケーションの場が減っている。ICTの活用などもあるが、画面を通して人と接した世代が大人になったとき、周りの人のことを思いやれるのか不安。
- コロナに関する差別を題材にした紙芝居を作成、上演。紙芝居を見る子ども達の集中力は普段見られないものだった。
- 大人も改めてもう一度紙芝居を見て、認識をつけていきたい。
- コロナに関する誹謗中傷は心配だが、具体的にコロナに関する法律相談などは聞かない。人権侵害行為を防ぐためには、人格形成の途中である児童生徒の自尊感情を高めることが重要。加害者の立場に立った視点も大切。
- 子ども達には人権教育の教材があり、啓発の機会があるが、大人にはない。年代によって受けてきた人権教育に違いがあることも考慮して人権教育を進めていかなければならない。
- 地域の人と触れ合いながら学ぶことは、子ども達の育ちの中で大事なこと。
- 今はみんなスマホを見ている。子ども達が大人になった時に本当にコミュニケーションが取れるのか心配。
- コロナ禍の人権問題を解決するために、やり方を変える必要もある。諏訪市全体として、取り組んでいければ。